

# 事業報告書

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2023年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	単位互換(産学連携科目)				
3. 事業趣旨	<p>ネットワーク多摩に加盟する大学・短大に所属する学生が、他の大学・短大の科目を履修し、そこで取得した単位が自大学の単位として認定される制度である。 本年度は各加盟大学の授業科目において、単位互換の要件を有する講座を学生が相互に受講する形で実施した。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>2023年度から本事業は一旦休止とする</p>				
5. 評価	<p>本事業については、現在の実施方法では当初より大学・学生ともに参加が少なく、学生の負担も大きいことや、各大学の担当者・関係者等の協力に見合う参加者数が今後も望めないため、手間やコスト等を勘案して2022年度までの実施とし、<u>2023年度からは一旦休止とした。</u></p>				
6. 執行体制	大学部会、加盟大学担当者、ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支(単位:円)	\	計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来奨学金 (多摩未来奨学金・多摩未来奨学金/サイエンス)				
3. 事業趣旨	<p>多摩地域の企業・団体等からの寄附金を原資とし、加盟大学等の学生を対象とした給付型の奨学金制度で、ネットワーク多摩の主力事業のひとつである。全国的に稀有な事例として大きく注目を受け補助金対象にもなった(2020年度より補助対象項目なし)。奨学生はネットワーク多摩の地域活性化事業への参加を通して、多摩地域の企業・団体等に接することからキャリア教育の一環にもなりスキルアップが図られる。大学にとっても有為な人材を社会に送り出す手立てとなることを目指している。</p> <p>また、理工系大学院向けには修学支援および学会発表等の研究助成をする多摩未来奨学金/サイエンス奨学金を給付し若い研究者の支援を行う。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>2023年度の採用条件は給与控除後の家計収入600万円以下、給与所得者以外は年間の所得金額が400万円以下、GPA3.0以上、各加盟大学の上限を5名で募集。審査委員の方々の負担軽減のため、対面での審査は行わず小論文審査、ZOOMによるオンライン面接審査を実施し13名を採用。今年度は、コロナ感染症5類移行に伴い対面イベントを復活し、奨学生の受入について協力いただいた企業・行政5団体に課題を提示していただき、奨学生が課題解決に取組むことを行った。また、細野専務理事による「課題論文」の添削指導も並行して実施した。</p> <p>また、理工系大学院向けには多摩未来奨学金/サイエンスは、小論文審査およびZOOMによる面接審査を実施し12月に、博士課程1名、修士課程1名、学部生1名の計3名の採用を決定。</p> <p>1. 多摩未来奨学生10期生(学部生・7大学13名)          恵泉女学園大学(5)、拓殖大学(1)、多摩大学(1)、中央大学(1)、帝京大学(1)、法政大学(1)、明星大学(3)  <b>【奨学生への対応等】</b>          ①プロフィール提出          ②「奨学生とのつどい」の参加、細野専務理事による講演内容のリアクションペーパーの提出          ③加盟企業から、奨学生の受入れを承諾いただいた企業・行政5団体による「課題」への取組          ④エッセイ集作成中。完成後加盟機関に配布予定          ⑤日仏会館・六本木ヒルズにおいてラファエル氏により研修会、茅野市地域課題解決ワークショップの参加  <b>【寄附金】</b>320万円 (前年410万円) →複数社がサイエンスの寄附に移行。  <b>【募集から採用までの経緯】</b>          応募期間: 4/1 ~ 6/20 (応募学生数8大学16名)          選考方法: 小論文およびZOOM面接          採用者: 7大学13名          審査組織: 多摩未来奨学金審査委員会(9名)</p> <p>2. 多摩未来奨学生/サイエンス5期生(博士課程1名、修士課程1名、学部生1名)  <b>【寄附金】</b>100万円 (前年120万円)  <b>【募集から採用までの経緯】</b>          応募期間: 9/1 ~ 10/31 (応募3名)          選考方法: 小論文およびZOOM面接          採用者: 2大学3名 創価大学(2)、東京都立大学(1) ※2024.8までに報告書を提出。          審査組織: 多摩未来奨学金/サイエンス審査委員会(4名)</p> <p>○奨学金寄附金合計 多摩未来奨学金+多摩未来奨学金/サイエンス=420万円 (前年530万円)</p>				
5. 評価	<p>2023年度は応募者数の増加を図るため、応募がしやすいよう募集期間を4月1日～6月20日に変更、募集人員を25名とし、給付額は30万円とし、経済要件を昨年同様、給与所得者は給与所得控除後の金額を600万円以下、給与所得者以外は所得金額を400万円を据え置きし、加盟大学の1校当たりの推薦対象者を3名から5名に広げた。</p> <p>また、イベントについては、コロナ感染症5類移行に伴い、対面活動を復活して加盟企業・行政の中から、奨学生の受入れを承諾頂いた5団体に対して、奨学生が振り分けられた、企業団体に訪問して課題解決に取組した。サイエンスに関しては、3年間実施してみて現状では応募者が増えないため、2023年度は募集要項の応募条件を一部緩和し、応募者3名との結果であった。</p> <p>寄附金については、趣意書、目録見書、チラシ等の作成・配布・ホームページによる周知等でサイエンスの認知度も上がり、複数企業の寄附でサイエンスへの移行があり、サイエンスは100万円を確保した。一方で多摩未来奨学金については、多摩信用金庫に関わる「ブルーグリーン倶楽部」からの寄附が減少したこと、また、景気低迷の影響を受けトータル110万円近く減少となった。</p>				
6. 執行体制	多摩未来奨学金審査委員会(9名)、多摩未来奨学金/サイエンス審査委員会(4名)、加盟大学担当者、ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支(単位:円)		計画	実績	差額	備考
	繰越金	19,901,488	19,901,488	0	特定資産の前期末残高
	収入	6,775,000	4,200,000	▲ 2,575,000	企業からの寄附金
	支出	6,775,000	5,330,271	▲ 1,444,729	10期生奨学金給付額(前期)375万円 S5期生奨学金給付額70万(内2024年4月支払予定:20万円)
	合計	19,901,488	18,771,217	▲ 1,130,271	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業			
2. 事業名	就職支援事業			
3. 事業趣旨	大学の未内定卒業生が社会問題となる中、多摩地域中小企業に就職する割合はわずか4%で、残りの96%は23区の企業に就職をしている状況にある。この問題を解消するために、学生と多摩の企業がお互いに知り合える出会いの場として「ねっ多摩フェス」を開催実施。就職説明会の案内、インターンシップ支援やワークプレイスメントの推進を行う。			
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆インターンシップ支援 社会へ出ることの意義を基軸とした授業及び就業体験の実施</li> <li>◆有給インターンシップ(旧事業名:ワークプレイスメント)の実施 学生情報センターと連携して有償型就業体験制度の実施。 同社が運営するW e b上のインターンシップスカウトの提供。</li> <li>◆「ねっ多摩フェス」開催 多摩地域の優良企業を知ってもらい出会いの場として、多摩地域の企業がブースを設置し、学生も企業も気楽に話し合える企画。 最終的には多摩地域企業への人材採用に繋げていくことを目的とするが、 コロナ禍明けの行動制限解除がなされたとはいえ、日程の設定が立てられず 本年度も休止とした。</li> <li>◆就職説明会の周知 (公財) 東京しごと財団開催の就職説明会への後援 <ul style="list-style-type: none"> <li>4月20日 京王プラザホテル八王子 参加者102名 参加企業25社</li> <li>5月25日 京王プラザホテル八王子 参加者88名 参加企業25社</li> <li>6月29日 ホテルエミシア東京立川 参加者62名 参加企業23社</li> <li>8月29日 ホテルエミシア東京立川 参加者85名 参加企業23社</li> <li>2月 6日 京王プラザホテル八王子 参加者46名 参加企業25社</li> <li>3月13日 京王プラザホテル八王子 参加者54名 参加企業30社</li> </ul> </li> </ul>			
5. 評価	売り手市場の状況から就職説明会への学生参加者が日を追うごとに減少している状況にある。多摩の状況を考えれば就職支援は事業の重要なひとつであり、一人でも多くの学生が多摩地域で就職する機会が増えるように情報提供などの支援をした。			
6. 執行体制	(公財)東京しごと財団、(株)学生情報センター、ネットワーク多摩事務局			
7. 事業収支 (単位:円)	計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	
	支出	175,000	84 ▲ 174,916	東京しごと財団への郵送費等
	収支	▲ 175,000	▲ 84	174,916



**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業				
2. 事業名	第9回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2023				
3. 事業趣旨	本コンペティションは、学生の視点や感性を活かし多摩地域の魅力や課題をフィールドワークを通じてプレゼン形式で学生団体が行う。学生団体と企業・行政との連携共同研究により多摩地域活性化に繋げること。これが最大の狙いです。				
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加資格 公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟の大学・短大・高専のゼミ研究室または担当教職員の元で活動を行っている学生団体</li> <li>・参加チーム数 9大学31チーム</li> <li>・テーマ 多摩の明るい未来は、挑戦する君達によって拓かれる！</li> <li>◆第一次審査 エントリーシートによる書類審査。 エントリー期間：2023年7月5日（水）～2023年7月19日（水） 22名の審査委員で審査を行い、12チームを合格とした。 2023年9月5日（火）に結果発表を行った。</li> <li>◆第二次審査 第一次審査を合格した団体が参加。 対面によるプレゼンテーションの内容から審査。 22名の審査委員で審査を行い、2023年11月25日（土）に結果を発表した。</li> <li>・最優秀賞 創価大学 安田賢憲ゼミナール eyes 誰もが排泄を我慢しなくていい登山街道へ</li> <li>・優秀賞 2チーム</li> <li>・奨励賞 2チーム</li> <li>・ビジネス大賞 1チーム、ビジネス優秀賞 2チーム、ビジネス奨励賞 2チーム</li> </ul> <p>報告書を作成し（140冊）、3月中に加盟機関ならびに関係者に送付をした。</p>				
5. 評価	9大学31チームが参加した。本年度より第一次審査を書類審査、第二次審査を対面でのプレゼンテーション審査とした。学生の視点研究でのまちづくりへの発表には非常に興味深くレベルの高い有意義なコンペティションであった。また、審査委員や学生からも対面にて意見交換を行う事の重要性を感じたといった声があった。				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局 協賛企業： エム・ケー株式会社 / 金澤建設株式会社 / 京西テクノス株式会社 / 株式会社立飛ホールディングス / たなべ物産 / 東洋システム株式会社 / 株式会社メトロール / 吉野化成株式会社 / 株式会社吉増製作所				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	700,000	1,220,000	520,000	各企業からの協賛金、交流会参加費
	支出	1,328,500	1,887,127	558,627	賞金、謝金、印刷製本等
	収支	▲ 628,500	▲ 667,127	▲ 38,627	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業			
2. 事業名	全国大学コンソーシアムの展開			
3. 事業趣旨	全国大学コンソーシアム協議会の研究交流フォーラムに参加し、交流、情報交換、参考事例の収集を行い、当団体の周知と事業活動を紹介する。			
4. 事業内容・実績	<p><b>2023年度全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：「大学コンソーシアムが紡ぐ持続可能な地域社会づくり」</li> <li>・開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス</li> <li>・総参加者数：234名</li> <li>・開催日時：2023年9月2日（土）13：30～19：30 2023年9月3日（日）10：00～12：00</li> </ul> <p>【1日目】（9月2日）</p> <p>◇ポスターセッション（12：00～17：15） ※ポスターセッション全体の来場者数は全国コンソーシアム協議会事務局にてカウントしておらず不明 対応者：瓜生（ネットワーク多摩事務局） 当法人ブース来場者：32名（チラシのみ受け取りを含む）</p> <p>【2日目】（9月3日）</p> <p>◇分科会 総数：188名</p> <p>▶第2分科会 43名 公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 「『地方創生』に産学官連携はどのような役割が期待できるか」 【コーディネーター】 細野 助博（ネットワーク多摩専務理事・中央大学名誉教授） 【報告者】 清原 慶子氏（前三鷹市長・杏林大学客員教授） 矢部 俊男氏（森ビル株式会社都市開発本部計画企画部メディア企画部 参与） 土山 希美枝氏（法政大学法学部政治学科教授）</p>			
5. 評価	2022年度に続き、コロナが落ち着いたこともあり対面形式にて開催。本年は静岡県静岡市にある常葉大学静岡草薙キャンパスにて開催された。当法人からは幹事及び運営委員を務める細野専務理事、またポスターセッションを担当する瓜生が出席した。ポスターセッションでは、30名ほどの受付を行ったが、他のコンソーシアムと違い産官学の三位一体型である当法人の特性に興味関心を持たれた質問が多かった。特に企業寄附による原資を持つ奨学金給付についての質問を多く頂戴した。			
6. 執行体制	全国大学コンソーシアム協議会 ・幹事会委員及び運営委員会委員（ネットワーク多摩 専務理事 細野助博）			
7. 事業収支（単位：円）	計画	実績	差異	備考
	収入	130,000	110,476	▲ 19,524 交通費・宿泊費補助
	支出	201,000	175,889	▲ 25,111 年会費・交通費、謝金等
	収支	▲ 71,000	▲ 65,413	5,587

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来創造フォーラム (第10回多摩地域大学理事長・学長会議)				
3. 事業趣旨	多摩地域の理事長・学長会議・多摩未来創造フォーラムは、多摩地域に根付く産業、教育、行政機関が一体となり、多摩地域に集積された知を最大限に活用して、将来の多摩地域を探る機会とするものである。				
4. 事業内容・実績	<p>◆会議名 多摩未来創造フォーラム～DX時代における見えない課題は何か～ 第9回多摩地域大学理事長・学長会議</p> <p>◆開催日 2023年6月3日（土） 13:00～18:00（帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア）</p> <p>◆参加来場者 88名</p> <p>◆基調講演 三角 育生 氏（東海大学 情報通信学部長） DX時代のサイバー・リスクマネジメントとそれを担う人材育成</p> <p>◆パネルディスカッション「DX時代における人材育成と産官学連携の役割」 コーディネーター：細野 助博 氏（ネットワーク多摩専務理事） パネリスト：白井 努 氏（京西テクノス株式会社代表取締役社長） 沖永 佳史 氏（帝京大学理事長・学長） 高橋 晃 氏（町田市役所経営改革室長（兼）デジタル戦略室長） 三角 育生 氏（東海大学 情報通信学部長） 宮坂 学 氏（東京都副知事）</p>				
5. 評価	2019年度以来、4年ぶりに開催した。会員総会・臨時理事会（役員改選）・多摩未来奨学金9期生修了式も同日に行った。しかし、コロナウィルスの5類移行からあまり日が経っていないこともあり、参加意欲は消極的であったように感じた。事務局スタッフの人数に対して当日の内容が多く、会場校である帝京大学様の手伝いがないと難しい状況であった。				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	155,000	155,000	
	支出	1,308,500	1,061,657	▲ 246,843	
	収支	▲ 1,308,500	▲ 906,657	401,843	



公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
2023年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩シビックプライド (旧「知のミュージアム 多摩・武蔵野検定」) 【2020年度より休止】				
3. 事業趣旨	多摩地域への愛着と定着の促進する方法として幼少から多摩の魅力を学び、多摩地域の活性化を担う人材育成を図る。				
4. 事業内容・実績	2020年度から本事業は一旦休止とする				
5. 評価	本事業での収入や立川市以外の参加が望めないため、2020年度より休止としている。				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支(単位:円)	\	計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩地域行政連携事業「政策スクール2023」				
3. 事業趣旨	<p>政策スクールの趣旨は行政間との連携促進を前提として共通課題の検討と処方箋を作成する「政策スクール」を開校することで、多摩地域の行政領域の人材育成に繋げていくことが趣旨である。</p> <p>「政策スクール」は人材の育成を通じて、行政間の連携や課題解決に繋げる必要がある。しかし、この認識が十分でないことも現状としてあるが、「政策スクール」を毎年開催することで共通認識が開けることを目指したい。</p>				
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：2023年11月20日（月）14：00～17：20 ※ 情報交換会 17：30～18：30</li> <li>・場所：東京多摩未来メッセ（東京都立多摩産業交流センター・八王子市）</li> <li>・アジェンダ：産と公の異業種交流を通じて、多摩地域の活性化に対して、産と官の間の考え方やアプローチの違いを認識することを体験し、その上で融合するプロセスを検討し、一つの戦略を構築する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) チーム ワークショップ（WS）3チームを構成する</li> <li>(2) ワークショップの構成員</li> </ul> </li> <li>▶入庁5年目くらいまでの若手行政職員（各市3名を選出）30名</li> <li>▶多摩ブルーグリーンクラブを中心とした若手経営者（6名：2名/WS 50音順）6名</li> <li>▶行政希望を含む学部生（多摩未来奨学生第9期生）3名</li> </ul> <p>当日参加者（懇親会除く） 66名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ（WS）参加者 ※ ファシリテーター・サブファシリテーター含む</li> <li>【行政】34名 【若手経営者】6名 【多摩未来奨学生】3名 計43名</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師者 5名</li> <li>糸久 正人様（法政大学社会学部教授）、臼井 努様（京西テクノス株式会社代表取締役社長）</li> <li>木内 基容子様（八王子市副市長）、長島 剛様（多摩大学経営情報学部教授）</li> <li>松尾 尚之様（東京都市町村自治調査会調査部長）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴講者【行政】9名 【企業】4名 計13名</li> <li>・運営担当【行政】4名 【多摩未来奨学生】1名</li> <li>・懇親会【行政（WS参加）】20名 【講師者】5名 【行政（聴講）】5名</li> </ul>				
5. 評価	<p>異業種交流を通して、行政とビジネスの交流を図ることができた。また参加した10市の若手行政職員も懇親会等を通して、横の繋がりを得ることができた。</p> <p>但し、行政職員の認識した「多摩地域」が自らの行政区域の枠を超えて出ていないため、幅の広い多角的な視野を持った人材の育成が急務であると感じた。</p>				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	19,000	19,000	交流会参加費
	支出	200,000	173,742	▲ 26,258	会場借用料等
	収支	▲ 200,000	▲ 154,742	45,258	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	新任大学教員研修				
3. 事業趣旨	<p>大学入試改革と呼応して、従来は一方的な知識の伝達・注入に偏りがちだった高校や大学での学びに「生徒・学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング」の導入が求められています。本セミナーでは、参加者及び講師との交流を通してアクティブ・ラーニングを体験的に学び、それぞれの教育実践につなげることを目的としている。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>第13回新任教員研修セミナー  『拡張されたアクティブ・ラーニングと未来の学び』  開催形式・日程  ①オンデマンド講義 8月1日配信開始  ②オンラインセミナー（Zoom） 8月20日（日）13:00~15:00  ③合宿セミナー（1泊2日） 8月28日（月）~29日（火）  オンライン：Zoomミーティングルーム  合宿：公益財団法人大学セミナーハウス（東京都八王子市下柚木1987-1）  主催：公益財団法人大学セミナーハウス  共催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩</p> <p><b>【開催趣旨】</b>  第13回新任教員研修セミナーでは、デジタルに拡張された新たなアクティブ・ラーニング型授業のあり方を探ります。このことに対応して、より体験的にその方法を学ぶことができるように、新任教員研修セミナーは、実施方法を従来の2泊3日の合宿研修から、オンラインでの事前学習プラス1泊2日の合宿研修に変更となった。  大学セミナーハウスは、大学教員相互の交流を図ることによってわが国の大学教育の向上・発展に寄与することを目的としており、今年度も学術・文化・産業ネットワーク多摩との共催で国公立大学の枠を越えた本セミナーを企画。  （運営委員長 菊地 滋夫）</p> <p>参加状況：12校21名  江戸川大学1名、大阪物療大学2名、沖縄県立看護大学1名、敬愛大学1名、国士舘大学3名、上智大学1名、駿河台大学3名、中央大学2名、兵庫県立大学2名、防衛大学校2名、前橋工科大学2名、明星大学1名</p>				
5. 評価	<p>当団体は共催として協力する形をとっている。  2023年度第13回新任教員研修セミナーはオンデマンド講義、オンラインセミナー、合宿セミナーの3形態に分けて開催された。</p>				
6. 執行体制	<p>主催：公益財団法人大学セミナーハウス  共催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩</p>				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	

**公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩**  
**2023年度 事業報告書**

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩地域のまちづくりエキスパート育成事業【2021年度新規事業】				
3. 事業趣旨	<p>自然でも社会コミュニティでも、産業構成でも多様な個性を持つまちで構成される多摩地域の総合的な学習教材を作成する。この学習教材を通じて、老若男女が楽しみながら多摩地域を俯瞰的かつ総合的に把握し、将来的に「まちづくりエキスパート」になることを目指す備えるべき基礎知識がICTを通じて「いつでも、どこでも、だれでも」得られるような教育コンテンツを作成する。システムの使用については、使用対象者を区分して課金することにより、今後のネットワーク多摩の継続的な事業運営を行っていく一助とする。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>2021年度、2022年度の2年間で小学校、中学校、大学、企業、行政で使用できる多摩地域のデジタル教材を作成し、2023年度から課金可能なシステムでの運用を行う。 また、企業のリカレント教育等に使用していただき継続的な事業運営を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協賛企業の株式会社立飛ホールディングスと契約交渉・調整等。</li> <li>2. 学術委員会、編集委員会の実施。</li> <li>3. 執筆者の推薦依頼。執筆者・テーマ等の決定。</li> <li>4. 執筆要綱の作成・配布。各分野の先生方に執筆を依頼。</li> <li>5. 図表の配置、リンク、校正作業。</li> <li>6. 執筆原稿を基に電子教材とe-ラーニングコンテンツを作成。</li> <li>7. 教材、コンテンツのチェック</li> <li>8. 広報活動</li> <li>9. 小学校、中学校、大学、企業、行政で教材を使用。</li> <li>10. シンポジウムの実施。</li> </ol> <p>2021年度は1～4番、2022年度は4～8番、2023年度は8, 9番、2024年度以降9, 10番を実施予定。</p> <p>2023年度は、2021年度～2022年度で作成したリカレント教育コンテンツ『多摩・島しょ百科全書』第1期教材（電子テキスト+Webテスト）の提供を開始した。チラシ作成配布、事業概要および参考テキストの案内送付、お試し利用IDの付与等、周知広報活動を実施し、7団体45名が受講した。また、第2期教材として、第1期教材23テーマに加え、新たに8テーマを追加制作した。本教材の普及加速化に向けて、各団体への協力要請や文科省の補助金申請を準備した。</p>				
5. 評価	<p>教材を試したいとの要望があり5団体の人材教育ご担当者にお試し利用IDの付与を実施した。そのうち3団体より受講申込みがあり、第1期教材の受講者は7団体45名の結果となった。お試し利用ID付与等、受講増加に繋がる周知広報活動の実施が重要と感じた。教材コンテンツは、新たなテーマ加えて、内容の強化・充実を図っていく。より多くの人に活用される教材コンテンツを目指すためには、ニーズの調査が課題となる。 今後は各団体に協力要請を図り、リカレント教育として定着させていくことにより、本事業の継続的な運営が期待できる。</p>				
6. 執行体制	学術委員会、編集委員会、ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支(単位:円)		計画	実績	差異	備考
	収入	9,000,000	405,900	▲ 8,594,100	「多摩島しょ百科全書」第1期受講料
	支出	10,005,000	5,085,834	▲ 4,919,166	執筆料、謝金、電子データ編集製作費等
	収支	▲ 1,005,000	▲ 4,679,934	▲ 3,674,934	特定費用準備金から100万円取り崩し運営に充てる